

### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①: 高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第 115 条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

##### (観点に係る状況)

本校の目的は、昭和 42 年に国立商船高等専門学校として設置された時に明確に定められ、学則第 1 条に掲げている。平成 17 年度に設置された専攻科については、学則第 42 条に掲げている(資料 1-1-①-1)。本校は弓削海員学校として設置されて以来、百十余年の長期にわたる商船教育に加えて、工業系 2 学科(電子機械工学科、情報工学科)及び専攻科が改組・新設により設置されてきた経緯がある。

平成 14 年度には、学校として養成したい人材像及び学科として養成したい人材像を教育方針として定めることで、卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力を具体的に示した。平成 22 年度には、高等専門学校一般に求められる目的、教育方針及び学科・専攻科ごとの教育目標を明確にするための規則制定を行い、現在に至っている(資料 1-1-①-2)。教育方針及び教育目標には、海、ものづくり、国際的視野、海事総合科学、海事管理技術者、瀬戸内海地域のキーワードを取り入れることで、本校を取り巻く環境や特徴を活かした教育を展開することが明記されている。

本校の教育方針及び教育目標は、学校教育法第 115 条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的である「深く専門の学芸を教授」「職業に必要な能力の育成」を踏まえて定められたものである。その内容は、学校教育法第 115 条に規定された高等専門学校一般に求められる目的に適合している(資料 1-1-①-3)。

毎年開催している外部有識者による運営諮問会議(資料 1-1-①-4, 5)、校内での自己点検・評価(資料 1-1-①-6)等にも目的及び教育目標を掲載し説明及び点検を行っている。

##### (分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、高等専門学校の使命を明確に定めている。また、目的に基づいて教育方針及び学科・専攻科ごとの教育目標を具体的に定めている。

以上のことから、本校は、高等専門学校一般に求められる目的、学科及び専攻科ごとの目的を明確に定めているといえる。

## 第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第 1 条の 2 本校の教育方針及び教育目標は、別に定める。

## 第 8 章 専攻科

(設置)

第 41 条 本校に専攻科を置く。

(目的)

第 42 条 専攻科は、高等専門学校における教育の基盤の上に、精深な程度において商船及び工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(専攻及び入学定員)

第 43 条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員
海上輸送システム工学専攻	4 人
生産システム工学専攻	8 人

(専攻の教育目標)

第 43 条の 2 専攻の教育目標は別に定める。

(出典：弓削商船高等専門学校規則集 1 - 1 抜粋)

## ○弓削商船高等専門学校教育方針・教育目標に関する規則

制 定 平成22年 3 月 18 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校学則第 1 条の 2、第 7 条の 2 及び第 43 条の 2 の規定に基づき、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の教育方針及び教育目標について定めるものとする。

(教育方針)

第 2 条 本校の教育方針は、次のとおりとする。

- (1) 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- (2) 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。
- (3) 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

(教育目標)

第 3 条 学科等ごとの教育目標は、次表のとおりとする。

学 科 等		教 育 目 標
教 養 教 育		幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成
専 門 教 育	商 船 学 科	船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
	電 子 機 械 工 学 科	ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成
	情 報 工 学 科	情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成

2 専攻ごとの教育目標は、次表のとおりとする。

専 攻	教 育 目 標
海上輸送システム工学専攻	海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し、システムの運用、開発、商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成
生産システム工学専攻	機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

附 則

この規則は、平成22年 4 月 1 日から施行する。

(出典：弓削商船高等専門学校規則集 2 - 38 抜粋)

資料 1 - 1 - ① - 3

## 高専の教育目的と本校の教育目的との整合性

高専の教育目的	本校の教育目的
深く専門の学芸を教授	自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
職業に必要な能力の育成	身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

(出典：平成 18 年度認証評価自己評価書 P.7)

資料 1 - 1 - ① - 4

## 運営諮問会議諮問事項一覧

回	日時	諮問事項
第1回	平成16年11月30日(火) 14:00~16:30	(1)本校の特徴を生かした個性的教育の進め方について (2)本校に適正な入学生の確保と個性伸長のための教育改善について
第2回	平成17年7月11日(月) 14:00~16:30	(1)本校の社会貢献について (2)専攻科の発足と内容の充実に向けて
第3回	平成19年2月2日(金) 14:00~16:30	(1)学生指導について (2)学生寮の運営について
第4回	平成20年1月29日(火) 14:00~17:00	(1)地域共同研究推進センターにおける活動 (2)専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用
第5回	平成21年3月5日(木) 14:00~17:00	(1)入試業務に関すること ①学生募集について ②試験問題の作成ミスの防止について ③重要書類の安全な保管方法について (2)学内施設の効率的な運営方法 ①保健室 ②図書館
第6回	平成22年3月15日(月) 14:00~16:30	(1)第1期中期計画のまとめについて (2)技術支援センターについて
第7回	平成22年12月22日(水) 14:00~16:20	(1)国際交流活動について
第8回	平成23年12月19日(月) 14:00~16:00	(1)多様化する学生への支援について ①学習支援について ②キャリア支援について ③寮生活の支援について
第9回	平成24年12月5日(水) 14:00~16:00	(1)高専間の連携について (2)学校の管理運営について

(出典：企画広報室)

# 弓削商船高等専門学校 第8回運営諮問会議報告書

平成23年12

## はじめに

独立行政法人化した平成16年度、教育研究の質を一層向上させるための外部有識者による評価組織として運営諮問会議を設置いたしました。本年度は12月19日に第8回運営諮問会議を開催しましたので、その内容をまとめたものを公表いたします。

第1回会議では、「本校の特徴を活かした個性的な教育について」「本校に適正な入学生の確保と個性伸長のための教育改善について」、第2回会議では、「本校の社会貢献のあり方」「専攻科の発足と内容の充実に向けて」、第3回会議では、「学生指導について」「学生寮の運営について」、第4回会議では、「地域共同研究推進センターにおける活動成果の教育への還元」「専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用」、第5回会議では、「入試業務に関すること」「学内施設の効率的な運営方法」、第6回会議では、「第1期中期計画のまとめについて」「技術支援センターについて」、第7回会議では、「国際交流活動について」を諮問し、委員の方々からは貴重なご提言をいただきました。

今回の第8回会議では、第7回会議でのご提言に対する対応状況を説明した後、「多様化する学生への支援について」の項目について諮問いたしました。

「多様化する学生への支援について」では、初等教育機関から高等教育機関にいたるまでの共通した検討事項であり、各教育機関においても様々な取り組みが行われております。最近では、学生が多様化する中で、進路や人間関係での迷いが生じる学生も多々おり、一個人の支援者の努力ではどうにもならない教育問題が多く浮上しております。支援計画について「学習支援について」、「キャリア支援について」、「寮生活の支援について」の3項目に分けて、組織的な支援体制を構築して対応することが重要と考え、現状や課題の状況報告を行い、運営諮問会議委員からご意見をいただくことにしました。

会議では、この諮問事項に対して、それぞれの委員の立場から大変有益なご提言をいただきました。今回いただきましたご提言は真摯に受け止めて、今後、本校の教育研究活動における一層の改善に役立てていく所存であります。

最後に、ご多忙にもかかわらず、本校の発展のためにご助言をいただきました、杉田委員長をはじめ運営諮問委員の方々に厚くお礼申し上げます。

平成23年12月

弓削商船高等専門学校長  
落 合 敏 邦

(出典：第8回運営諮問会議報告書表紙及び次頁)

## 目 次

1. 第7回運営諮問会議（平成22年度）の報告	
1-1 第6回運営諮問会議（平成21年度）の提言と本校の対応	1
(1) 第6回運営諮問会議（平成21年度）の提言	1
(2) 提言に対する本校の対応	1
1-2 第7回運営諮問会議（平成22年度）諮問事項と提言	10
(1) 第7回運営諮問会議（平成22年度）諮問事項	10
(2) 審議内容	12
(3) 提言	16
2. 教育方針	17
3. 学科等の教育目標及び現状と課題	17
(1) 総合教育科（教養教育）	17
(2) 商船学科	19
(3) 電子機械工学科	21
(4) 情報工学科	23
4. 専攻科の教育目標及び現状と課題	25
(1) 海上輸送システム工学専攻	25
(2) 生産システム工学専攻	26
5. 事務組織の現状と課題	29
6. 施設・設備	32
資料編	35

(出典：平成22年度自己点検・評価報告書目次)

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育方針と教育目標は、ウェブサイト（資料 1-2-①-1）、学校要覧（資料 1-2-①-2）、学生便覧（資料 1-2-①-3）、シラバス（資料 1-2-①-4）、専攻科学生用手引き・シラバス（資料 1-2-①-5）に掲載することで、学校構成員（教職員及び学生）に周知している。

教育方針及び教育目標は、ウェブサイトや刊行物による一般的な周知のほか、学生には、新入生オリエンテーションで刊行物を活用して教務主事補が説明すること（資料 1-2-①-6）、及び各教室に教育方針と教育目標を明記したパネルを掲示することでも周知している。教職員（非常勤を含む）には、学生便覧や学級担任の手引き（資料 1-2-①-7）の配布、新任教員オリエンテーションでの新任教員の手引き（資料 1-2-①-8）に基づく教務主事の説明、及び各課事務室等に教育方針を明記したパネルを掲示することにより周知している。

平成 24 年度には教職員、準学士課程及び専攻科課程の学生に対して目的の周知状況についてアンケート調査を実施した（資料 1-2-①-9～11）。この結果、掲載場所を知っていると、ほとんどの教職員（非常勤を含む）へ周知されているが、準学士課程と専攻科課程の学生への周知度は 5 割前後に留まっている。内容まで十分理解している者は、教職員で 7 割前後、また、準学士課程と専攻科課程の学生は 2 割未満である。アンケートの設問形式が大雑把であったことを考慮しても、今後、周知度を高めるように努める必要がある。

（分析結果とその根拠理由）

本校は、教職員及び学生に対して、ウェブサイト及び刊行物等によって教育方針及び教育目標の周知を図っている。目的の周知状況についてアンケート調査を実施したところ、掲載場所を知っていると、ほとんどの教職員（非常勤を含む）へ周知されているが、準学士課程と専攻科課程の学生への周知度は 5 割前後に留まっている。内容まで十分理解している者は、アンケートの設問形式が大雑把であったことを考慮しても、今後とも周知強化を図っていくことが肝要である。

以上のことから、本校は、学校の構成員（教職員及び学生）に周知しているものの、今後、更なる周知に努める必要がある。

The screenshot shows the website interface for Yuge National College of Maritime Technology. At the top, there is a navigation bar with links for HOME, ニュース (News), お問い合わせ (Contact), and リンク集 (Link Collection). Below this is a banner for the college's name in Japanese and English. The main content area is titled '【教育方針】' (Education Policy) and lists three points: 1. Fostering talent with a strong foundation in natural science and specialized technology, capable of adapting to a diverse and rapidly changing scientific and technological landscape. 2. Fostering talent with a broad perspective on various phenomena, particularly in nature, culture, and history, with curiosity and the ability to think and investigate from multiple angles, and originality. 3. Fostering talent with an interest in the culture and society of Japan and the world, an international perspective, and high ethical standards. Below this is the '【教育目標】' (Education Objectives) section, which is divided into '【学科等】' (Courses) and '【専攻】' (Specialties). Under '【学科等】', it lists: 教養教育 (Liberal Education) for broadening horizons and developing comprehensive judgment and creative abilities; 商船学科 (Maritime Studies) for training technicians based on maritime general science; 電子機械工学科 (Electrical and Mechanical Engineering) for training technicians who can plan, design, produce, maintain, and operate; and 情報工学科 (Information Engineering) for training system technicians with information literacy and problem-solving skills. Under '【専攻】', it lists: 海上輸送システム工学専攻 (Maritime Transport System Engineering) for training technicians with practical maritime management skills; and 生産システム工学専攻 (Production System Engineering) for training technicians with specialized knowledge and skills in mechanical and information systems, contributing to the development of the region.

[ 戻る | カテゴリの一覧に戻る ]

(出典：本校ウェブサイト)





校長  
President  
木村 隆一  
KIMURA Ryuchi

**教育方針 Mission of College**

1. 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。

To educate students to acquire fundamental faculties of natural science and techniques of their special fields and to be able to keep up with new technology which is getting higher and more various.

2. 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。

To educate students to be curious about phenomena around, especially nature, culture and histories related to the sea and to be able to consider and research them from various points of view.

3. 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

To educate students to be interested in the cultures and societies of Japan and overseas and to have international perspective and high morality as a human being and as an engineer.

**教育目標 Educational Goals**

学科等 Department	教育目標 Educational Goals
<b>教養教育</b> Liberal Arts Education	幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成 To develop overall reasoning capacity based on the broader view, and to nurture basic knowledge indispensable for practical engineer with novel creativity.
<b>商船学科</b> Maritime Technology Department	船員教育を基礎とした海事総合科学を身につけた技術者の育成 To train engineers who acquire general maritime science and technology based on seamen's training.
<b>電子機械工学科</b> Electronic Mechanical Engineering Department	ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者の育成 To train practical engineers: who plan, design, manufacture, operate and maintain products.
<b>情報工学科</b> Information Science and Technology Department	情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成 To develop information literacy, acquire knowledge of information engineering. In addition, to train system engineers who have abilities of problem-analysis and problem-solving.
<b>専攻 Advanced Engineering Course</b>	<b>教育目標 Educational Goals</b>
<b>海上輸送システム工学専攻</b> Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し、システムの運用、開発、商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成 To acquire specialized knowledge and skills in the field of maritime transportation system and marine engine system, and train practical maritime administration engineer with knowledge and skills of developing and operating such systems, and to nurture the senses of commercial vessels and engineering.
<b>生産システム工学専攻</b> Advanced Production Systems Engineering Course	機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成 To educate specialized knowledge and skills of integrated engineering field mainly mechanics and information, to train capability to produce something good for the community in and around the Seto Inland Sea, as well as ability to develop such systems, also to nurture practical engineers with the sense of internationalism.

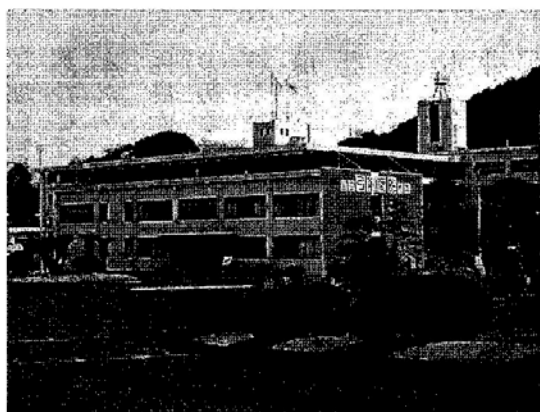
(出典：2012 学校要覧巻頭)

## 教 育 方 針

- 1 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- 2 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。
- 3 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

## 教 育 目 標

- 1 教養教育  
幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成
- 2 専門教育
  - 商船学科  
船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
  - 電子機械工学科  
ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成
  - 情報工学科  
情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成



(出典：平成 25 年度学生便覧巻頭)

## 教 育 方 針

- (1) 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
- (2) 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
- (3) 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

## 教 育 目 標

- 教養教育  
幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成
- 商船学科  
船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
- 電子機械工学科  
ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成
- 情報工学科  
情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成

(出典：平成 25 年度授業科目シラバス巻頭)

## 教 育 方 針

- (1) 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
- (2) 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
- (3) 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

## 教 育 目 標

- 海上輸送システム工学専攻  
海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し、システムの運用、開発、商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成
- 生産システム工学専攻  
機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

(出典：平成 25 年度専攻科学生用手引き・シラバス巻頭)

平成 24 年度新入生オリエンテーション実施要項

- 1 目 的 団体生活を通して、団体秩序を守り、寛容な心で同級生との親睦を図るとともに、学校生活及び学生としての心得を身につけることを目的とする。
- 2 期 日 平成 24 年 4 月 11 日 (水) ～ 12 日 (木)
- 3 場 所 大三島少年自然の家  
愛媛県今治市大三島肥海 4 7 6 2 - 1  
電話 0 8 9 7 - 8 2 - 0 3 1 1
- 4 日 程 別紙のとおり
- 5 参 加 者 ① 学生 119 名 (23 名) + (留年生 1 名) 計 120 名 (23 名)  
S1 42 名 ( 3 名) + (留年生 0 名) 計 42 名 ( 3 名)  
M1 39 名 ( 1 名) + (留年生 1 名) 計 40 名 ( 1 名)  
I1 38 名 (19 名) + (留年生 0 名) 計 38 名 (19 名)
- ② 教職員 参加 15 名 (2 名) ※ 宿泊 11 名 (1 名)  
学生主事 ① 葛目幸一  
学生主事補 ② 政家利彦・③ 二村彰  
④ 雙知延行・⑤ ガンバット (12 日のみ)  
教務主事補 ⑥ 田房友典  
寮務主事補 ⑦ 野々山和宏  
1 年担任支援 ⑧ 上江憲治  
S1 担任 ⑨ 藤井清治  
M1 担任 ⑩ 水崎一良  
I1 担任 ⑪ 高木 洋  
看護師 ⑫ 若松 純子  
非常勤講師 阿部 智美 (11 日のみ)  
校長、勸久保教員 (11 日のみ)

時間	日課・研修方法	場所	研修内容	講師等	参加者
8:10	学寮出発	学寮前	寮生は 8:05 集合	学級担任・学生主事補	S1 担任; 房野
8:45	学寮～下弓削港	下弓削港	フェスバス乗車(寮生)	学級担任・学生主事補	M1 担任; 望月
	下弓削港発		船名: しんこう3・しんこう5 2 班に分かれて乗船	岩城汽船チャーター便 2 隻 学級担任・学生主事補	I1 担任; 徳田 葛目学生主事 学生主事補
9:00	因島(土生港)着	因島バス車庫	①号車商船学科・②号車電子機械工学科・③号車情報工学科 ①号車(担任・学生主事補)②号車(担任・学生主事補)③号車(担任・学生主事補) エスタマ 8 日・9 日(藤井教員・若松看護師)・ワゴン R 8 日・9 日(8 日:ガンバット教員:校長・阿部先生)	学級担任	(向瀬、ガンバット、)
9:20	集合、点呼				榎根、樹田、房野)
9:30	土生港発(借上バス)				初年次教育支援室長 (藤井教員)
10:30	大三島少年自然の家着 入所式 オリエンテーション	第一研修室	① 学生代表挨拶 ② 学生主事諸注意 ③ 各係分担任説明(確認) ④ 教員紹介 ⑤ 入所オリエンテーション	司会: 学級担任  所員	教務主事補 (水崎教員)
11:10	全体集会	第一研修室	① 集団行動訓練 ② 学生生活について	学生主事・主事補	
11:45	昼食準備	食堂			給食係
12:00	昼食 休憩				
13:00	全体集会	第一研修室	① 教務関係説明 (13:00～13:50) ② 国歌・校歌練習(60分) (14:00～15:10)	司会: 学級担任 教務主事補 学生主事、非常勤講師	

(出典: 学生課)

平成 24 年度

**学級担任の手引き**

弓削商船高等専門学校

**本校の教育方針**

- 1 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
- 2 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
- 3 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

**学科としての人材育成目標**

商船学科 船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成

電子機械工学科 ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成

情報工学科 情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成

総合教育科 幅広い視野に立った総合的な判断力、斬新な独創力を備えた実践的技術者養成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す

専攻科海上輸送システム工学専攻：海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し、システムの運用、開発、商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成

専攻科生産システム工学専攻：機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

(出典：学生課)

平成 24 年度  
**新任教員の手引き**  
 教務関係

弓削商船高等専門学校

**新任教員の手引き 目次**

I. 教育一般に関して.....

1. 本校教育の現状と課題.....
2. 本校の教育方針.....
3. 本校教員としての心構えと勤務.....
4. 学校の組織、運営、公務分掌.....
5. 公簿及び文書処理の仕方と活用.....
6. 研究活動.....
7. 紀要、学術誌等への論文発表.....
8. 特別教育活動.....

II. 高等専門学校制度.....

1. 高等専門学校制度の基本.....
2. 教育課程.....
3. 本校における教育課程.....

III. 学習指導（指導方法）.....

1. 学習指導案の作成（シラバスの作成利用）.....
2. 発問の方法.....
3. テスト問題の作成.....

IV. 授業時の実務.....

1. 正常な授業運営.....
2. 各試験の実施要領.....
3. 不正行為とその対応.....
4. 成績評価について.....
5. 進級・特別進級及び卒業について.....
6. その他.....

V. 参考資料 授業の心構え Q&A.....

参考資料 学生指導.....

VI. 特別活動（ホームルーム）.....

1. ホームルーム運営.....
2. 学級担任.....
3. クラス運営上の具体的留意事項.....

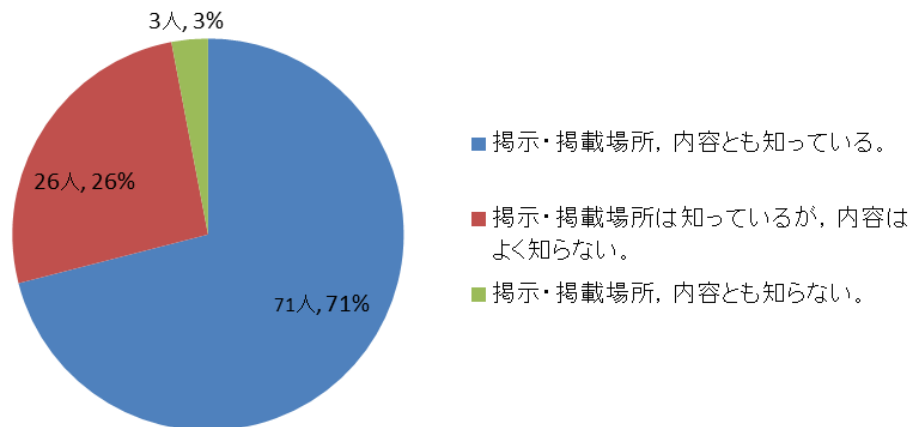
VII. 学生指導.....

VIII. その他.....

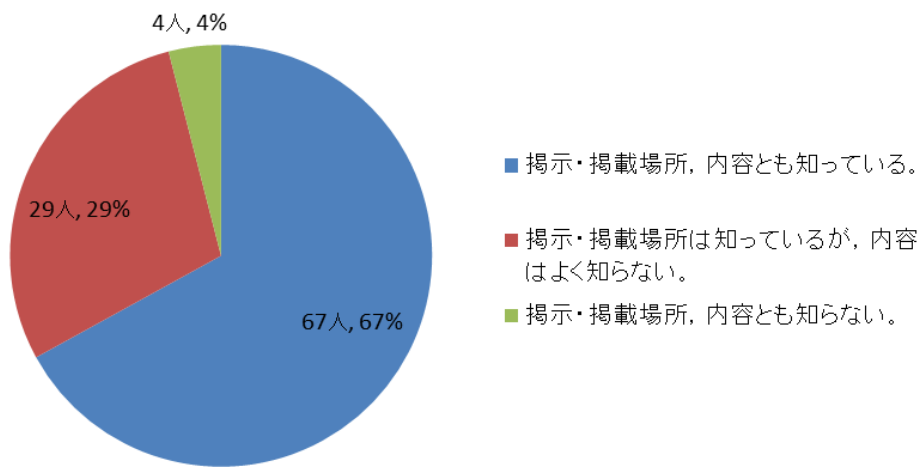
（出典：総務課）

教 職 員

「本校の教育方針」をどの程度知っていますか？



「学科ごとの教育目標・専攻ごとの教育目標」をどの程度知っていますか？

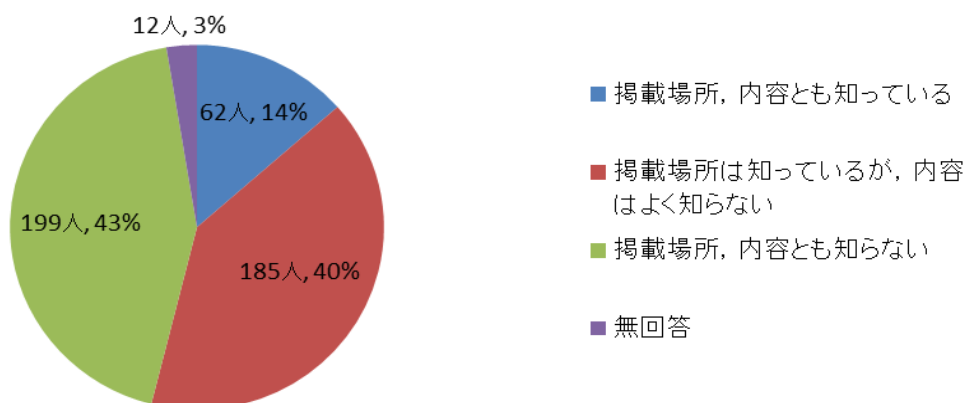


(出典：企画広報室)

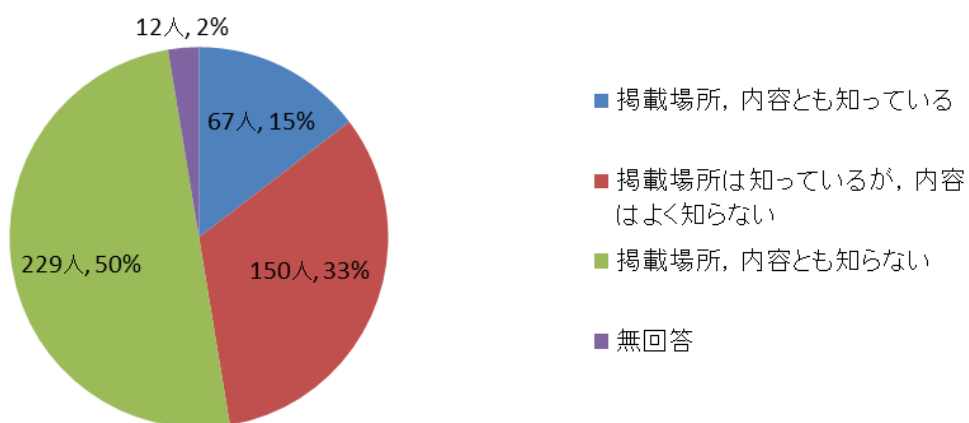


## 準学士課程

## 「本校の教育方針」をどの程度知っていますか？



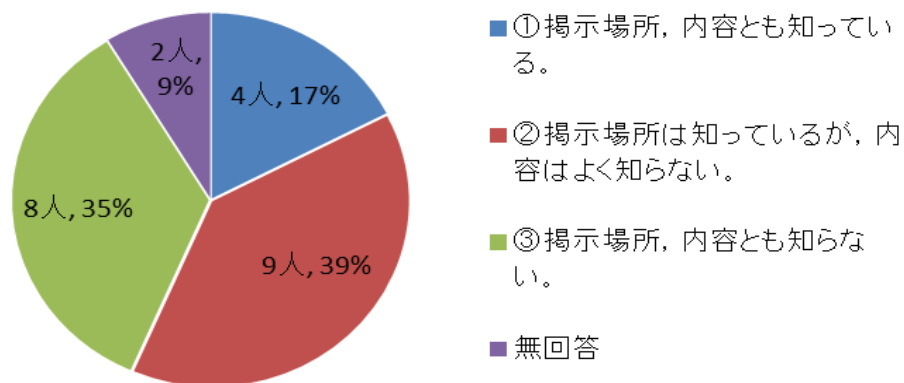
## 「学科ごとの教育目標」をどの程度知っていますか？



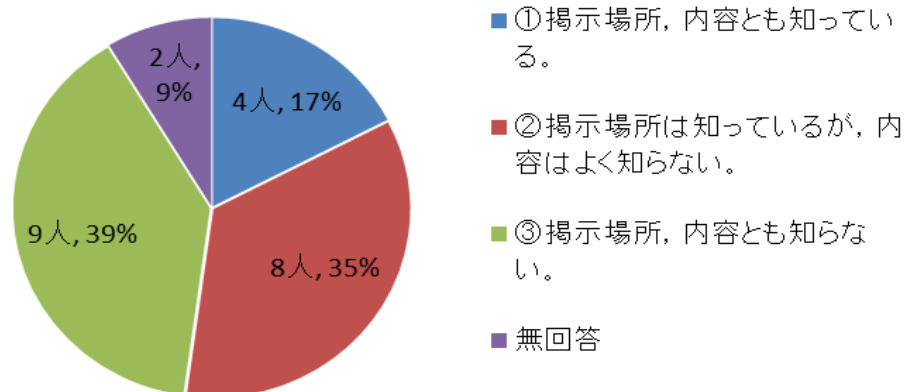
(出典：企画広報室)

## 専攻科課程

質問1 「本校の教育方針」をどの程度知っていますか？①～③のうち1つ選んでください。



質問2 「専攻ごとの教育目標」をどの程度知っていますか？①～③のうち1つ選んでください。



(出典：企画広報室)

**観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。**

(観点に係る状況)

本校の教育方針及び教育目標は、ウェブサイトと学校要覧に掲載することによって、社会に公表している。学校要覧については、上島町役場、島内の学校、今治市役所などの関係機関に毎年配布し(資料1-2-②-1)、また、本校主催の学校説明会用資料として活用することで教育方針及び教育目標を公表している(資料1-2-②-2)。

学校PRを目的に作成した学校案内(資料1-2-②-3, 4)では、学則にある教育目標を養成したい人材像として平易に表現し、中学生を対象にしたオープンキャンパス(年2回実施)の参加者全員に配布している(資料1-2-②-5)。また、中学校へのPR活動では、訪問時に学校案内を持参するとともに、教育方針及び教育目標の説明を行っている。さらに、中四国地方を中心に全国の中学校へ学校案内を郵送し(資料1-2-②-6)、学科ごとの養成したい人材像を広く公表している。

(分析結果とその根拠理由)

本校は、教育方針、教育目標、教育目標を踏まえた学科ごとに養成したい人材像を刊行物とウェブサイトで公表しており、オープンキャンパスや中学校訪問時に積極的に説明している。しかし、中学生を対象にした学校案内には、学科ごとに具体化した養成したい人材像を示しているが、学則に掲げている教育方針及び教育目標そのものは掲載していない。社会に広く公表するためには、学校案内にも教育方針及び教育目標を掲載することが改善すべき点といえる。

資料 1 - 2 - ② - 1

(別紙1)

学校要覧配布先一覧

送付先機関	部数	送付先機関	部数	送付先機関	部数
文部科学省初等中等教育局	2	その他		校内配布	
文部科学省高等教育局	4	日本船舶職員協会	1	校長	1
高専機構本部	3	上島町役場	1	事務部長	1
国立大学等		上島町教育委員会	1	主事	4
海技大学校	1	弓削小学校	1	課長(室長)	4
東京海洋大学	1	弓削中学校	1	学科長	4
神戸大学	1	弓削高等学校	1	人事係	50
広島大学	1	尾道市役所	1	小計	64
愛媛大学	1	尾道市教育委員会	1	学外PR用	350
国立高専(中四国)	13	今治市役所	1	その他予備	136
小計	18	今治市教育委員会	1		
航海訓練所	8	同窓会長	1		
海上技術安全研究所	1	後援会長	1		
国立国会図書館	2	小計	12	合計	600

(出典：企画広報室)

資料 1 - 2 - ② - 2

平成 24 年度弓削商船高等専門学校「学校説明会、授業・施設見学会」  
配付資料

資料 1 平成 24 年度弓削商船高等専門学校「学校説明会、授業・施設見学会」次第

(裏面 「学校説明会、授業・施設見学会」席次表)

資料 2 高専での学園生活について

資料 3 本校は求めています。このような入学生を！

資料 4 弓削商船高等専門学校の特徴

資料 5 平成 23 年度卒業・修了者の就職・進学先一覧

資料 6 最近の主なクラブ活動実績(平成 23 年度)

資料 7 専攻科だより

資料 8 国立弓削商船高等専門学校パンフレット・リーフレット

資料 9 未来へのひとづくり ものづくり 専攻科

資料 10 弓削商船だより

資料 11 オープンキャンパスチラシ・参加申込書

(出典：学生課)

キミの夢は  
ここでかなう。

**国立弓削商船高等専門学校**  
Yuge National College of Maritime Technology

<http://www.yuge.ac.jp/>

商船学科   電子機械工学科   情報工学科

## 学科の紹介

## 未来へ!

「商船学科」、「電子機械工学科」  
将来、技術者に必要な知識、技術



### 商船学科

【アドミッションポリシー】  
◆船や海に強い興味を持っている人 ◆好奇心や探究心が強い人  
◆自立心が強く継続力のある人

世界の海で広く活躍しよう。  
海上輸送、船舶運航に関わる  
海のプロフェッショナルを育成

海事に関する総合科学技術を学び、船舶の運航、陸上の運送業、機械メーカー、エンジンや制御機器などのサービスエンジニアなど、幅広い分野で活躍できる技術者を育てることを目的としています。



★海技士国家試験合格者数商船高専5校の  
トップクラスを誇る実績!!

★帆船日本丸などによる遠洋航海で世界を巡る!

#### 取得可能な資格

- 3級海技士 (航海/機関)
- 第一級海上特殊無線技士 (航海)
- 小型船舶操縦士   ■ 1級・2級海技士 (筆記試験)
- ボイラ技士



※船舶職員として要求される2級および1級海技士の資格取得に当たっては、筆記試験(在学中から受験可能)、実地試験および卒業後の実務経験が必要となります。

#### 卒業後の主な進路

- 就職…川崎汽船㈱、商船三井、新日本海フェリー㈱、日本郵船㈱  
太平洋海運㈱、第一タンカー㈱、第三和ドック、正栄汽船㈱など
- 進学…東京海洋大学、神戸大学、豊橋技術科学大学、本校専攻科など

## 高い就職率と国公立大学への高い進学

平成25年度  
入学生出身中学一覧

**(東京都)** 中央区立銀座中学校、**(神奈川県)** 藤沢市立秋葉台中学校、藤沢市立神奈川中学校、藤沢市立長田中学校、三田市立ゆりのき台中学校、今治市立玉川中学校、今治市立西中学校、今治市立白方中学校、今治市立吉原中学校、今治市立東中学校、松山市立鶴川中学校、松山市立白浜中学校、松山市立高松中学校、高松市立一宮中学校、須崎市立須崎中学校、**(岡山県)** 岡山市立福江中学校、岡山市立東山田中学校、岡山市立西宮中学校、岡山市立福南中学校、岡山市立大門中学校、岡山市立東瀬中学校、岡山市

(出典：パンフレット)





オープンキャンパス  
7月29日(日)・30日(月)  
学校見学会・商船祭  
11月3日(土)・4日(日)

君の夢が  
ここで生まれる。

独立行政法人  
**弓削商船**  
YUKE NATIONAL COLLEGE



商船学科

- 航海コース
- 機関コース

卒業後の進路

職種  
 <航海コース>  
 国際航路・国内航路の航海士  
 船舶検査技師など  
 <機関コース>  
 船舶機関士  
 造船工  
 船舶機械製造  
 航路オペレーター

就職  
 日本郵船(株)・商船三井(株)  
 川崎汽船(株)  
 丸正日本汽船(株)  
 宇留興産海運(株)  
 内航郵船・カーフェリー  
 オアシス興業(フェリー) (株)  
 九州郵船(株)  
 株・ダイヤモンドフェリー  
 株・神崎グループ  
 日本マリンテクノ(株)  
 株・ダイアットコーポレーション  
 エムオーエンジニアリング(株)  
 パシフィックエンジニアリング(株)  
 DNPソリューション(株)  
 大業工業(株)  
 日産物産(株)  
 西武水産(株)  
 株・タニクスケーイーなど

進学  
 東京海洋大学  
 神戸大学  
 豊橋技術科学大学  
 東北理科大学など

日本経済を支えている海上輸送  
海のプロフェッショナルを育てる

商船学科では、世界の海で活躍する技術を学ぶことができます。航海士(船長)を目指す「航海コース」と、機関士(機関長)を目指す「機関コース」があり、3年生修了時に希望のコースを選択することで専門技術を学ぶことができます。練習船「弓削丸」を中心に、操船シミュレーターや内燃機関実験装置などがあり、学習環境も充実しています。また、教師陣は外国航路の船員経験者から経済学部出身者まで、幅広くいますので、バラエティーに富んだ教育が可能です。5年生後期からは、大型帆船や大型汽船による海外への遠洋航海がカリキュラムとして取り入れられ、実践に必要な技術を身につけると共に、人間性・コミュニケーション能力も磨くことができます。

カリキュラム



取得可能な資格

- 1級・2級海技士※(航海/機関) ■3級海技士(航海/機関)
  - その他 小型船舶操縦士 第3級海上無線通信士
  - 第1級海上特殊無線技士 エネルギー管理士 1級ボイラー技士 冷凍機械取扱主任者など
- ※20トン以上の船舶(大型船)を動かすための資格で、3級海技免状の上級免状です。  
 在学中に1級・2級海技士の筆記試験に合格する学生も多く、大手海運会社への就職が有利となります。本校ではこうした資格を取得するためのサポート体制を整えています。

(出典：学校案内)

**弓削商船高等専門学校**  
商船学科・電子機械工学科・情報工学科

**オープンキャンパス2011**

7月31日(日)  
8月1日(月)  
9:30 から

弓削商船高専へ  
見学はこう! 体験入学してみよう

体験入学・学校見学 実施!

参加ご希望の方は、7/23(金)までに各学校で取りまとめのうえ、お申し込みください。

(出典：学生課)

## 平成24年度学校案内・募集要項送付中学校・塾

## (中学校)

北海道	1	奈良県	3
茨城県	1	島根県	1
埼玉県	1	岡山県	130
千葉県	5	広島県	257
東京都	6	山口県	1
神奈川県	4	愛媛県	143
新潟県	1	高知県	100
福井県	1	徳島県	82
長野県	1	香川県	71
静岡県	1	福岡県	14
愛知県	2	佐賀県	1
滋賀県	6	熊本県	7
京都府	3	大分県	2
大阪府	32	宮崎県	1
兵庫県	67	鹿児島県	6
和歌山県	2	沖縄県	1
		合計	954

## (塾)

愛媛県	103	兵庫県	1
広島県	447	合計	551

(出典：学生課)



## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし

(改善を要する点)

教育方針及び教育目標の周知を図っているものの、更なる周知度の向上に努める必要がある。

## (3) 基準 1 の自己評価の概要

本校の目的は、学則で高等専門学校の使命を明確に定めている。また、本校を取り巻く環境や特徴を活かした教育を展開することを目指して、目的を具現化するための教育方針及び学科・専攻科ごとの教育目標を具体的に定めており、学校教育法の定める目的に適合している。

本校は、教職員及び学生に対して、ウェブサイト及び刊行物等によって教育方針及び教育目標の周知を図っている。目的の周知状況についてアンケート調査を実施したところ、掲載場所を知っている者を含めると、ほとんどの教職員（非常勤を含む）へ周知されているが、準学士課程と専攻科課程の学生への周知度は十分とは言えず、今後とも更なる周知を図っていくことが必要である。

社会に対しては、ウェブサイトへの掲載と学校要覧の関係機関への配布、学校案内をオープンキャンパス参加者全員へ配布し、中四国地方を中心に全国の中学校へ郵送するなどして広く公表している。